

広報活性化委員会

9回目の開催となる「学生研修会」は、2014年12月20日(土)に福岡大学にて開催された。この研修会は、2006年から年1回のペースで開催しており今年で9回目を迎えた。学生研修会とは、就職活動を控える学部生、修士学生、高専生を対象に、道路や橋梁をはじめとした社会基盤設備の重要性・現状・今後の展望について、ゼネコン、橋梁メーカー、建設コンサルタント、鉄道、官公庁などで活躍する若手・中堅技術者の講演を柱の一つとしている。その年のテーマを決めて講師陣を選任するが、本年度は、「女性技術者の視点から」がメインテーマの一つであった。柱の二つ目は、九州内の学生相互のネットワークを育成して、土木建設業への関心を高めて貰い、将来の九州の若手技術者の連携である。

第I部(12:30~16:30)では、今石尚氏(大成建設(株))、川畑宏志氏(八千代エンジニアリング(株))、後藤淳氏(福岡市)、池島傑氏(九州旅客鉄道(株))、塩先浩史氏(三井造船鉄構エンジニアリング(株))、国生昌美氏((株)オリエンタルコンサルタンツ)の第一線で活躍されている6名の講師に講演頂いた。また、「就職活動とは? 就職活動への心構え」のテーマに絞った講演を、運営委員としての立場で古賀誠氏にお願いした。第II部(16:45~18:30)では、講師と学生の立食形式による懇親会を催した。

参加者数は、第I部は学生62名(九工大24、九産大3、福岡大19、九州大14、熊本大2名)、第II部は学生37名、講師5名、運営委員他13名と賑わった。

学生研修会後のアンケートの結果の一部を紹介したい。KABSEを事前に知っている学生は全体の昨年度と同じ48%である。KABSEとの繋がりは、論文集と講演会が多く、論文投稿、講習会の順である。昨年度から始めたKABSEシンポジウムも影響していると考えられる。学生研修会への参加の動機は、昨年度までは「内容で判断」よりも「先生からの案内」が圧倒的に多かったが、今年はほぼ同数であり、学生研修会が学生へようやく浸透したのではと思う。学生研修会に参加するに値するかの問いには、「値した」が100%を占めるなど、学生の就職活動にかかる意気込みが強く伝わってくる結果であった。講演に関する意見・感想の自由コメント(原文のまま)を紹介したい。

- 様々な方面の話を聞いて大変よかった。自分の将来を考える上で非常に有用であった。また機会があればぜひ!
- 実際に行った事業をどの様に取り組んだか目的や問題などを説明して頂きました。今日この場に参加した事は今

後間違いなく自分にとってプラスになると思います。就職活動の話もしていただけてとても良かったです。今日はありがとうございました。

- 女性のワークライフバランスについて考えさせられた。
- 他では聞けないような内容を聞くことができ、本当にありがとうございました。特に、女性の働き方に関しては、自分もこれから就職活動をするにあたり、考えていたことだったので、とても参考になりました。
- 私自身が公務員を目指している立場だったので、〇〇氏のお話はとても興味を持って聞くことができました。JRや自治体が密接な関係にあることもしり、もっと詳しく知っていきたいと思いました。
- 先生から行けと言われて来たのですが、来てよかったです。
- 今まで各業種に対する偏見が強く、深くその業種のことを調べもせずにイメージで決めつけていたので、今回詳細な内容が伺えてよかったです。

今年度は、九州大の井手将一君、福岡大の前田涼介君と花田丈稔君に運営へ参画してもらい、講師の選任や内容など広報活性化委員会と一緒に企画を立案実行した。このような取り組みも含めた学生研修会に参加した学生たちが社会に巣立ち、九州を中心とした若い世代のネットワークが広がることを期待して、広報活性化委員会としては今後も学生研修会の活動を続けていこうと思う。最後に、会場を提供して頂いた福岡大学の渡辺浩先生・千田知弘先生、ご協力頂いた関係各位に深く感謝したい。

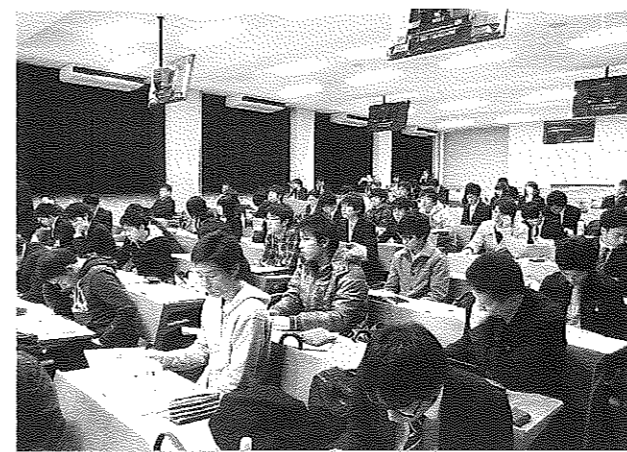


写真-1 第I部



写真-2 第II部

